

いわね



発行：木更津市岩根公民館：木更津市高柳3丁目2番1号 電話・FAX41-1184 発行責任者 館長 大河原 敏雄

緊急企画：健康講話

受講生募集！

健康よろず相談を 開設します！

薬剤師・カウンセラーによる、健康に関するさまざまなお悩みをご相談いただけます。（事前予約制／一人15分程度）

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、相談ご希望の方は、10月6日（火）8：30より電話にてお申込みください。
（先着順受付定員になり次第〆切）

1. 日時 10月28日（水）
10:00～11:30
2. 会場 岩根公民館 2階
3. 定員 12名（事前電話予約のみ）
4. 持ち物 マスク・マイスリッパ
5. 相談料 無料
6. 電話予約 41-1184

<開催見合わせの主催事業>

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、飛沫感染のおそれのある「うたごえ喫茶」と、重症化リスクの高い高齢者対象の「ほがらか教室」は、当面の間、開催を見合わせます。

11月分公民館使用申請 仮予約開始

◇日時：10月1日（木）8：30～

電話・FAX・メール受付

*10月から感染リスク防止のため、月初めの窓口受付は、行いません。電話・FAX・メールでの仮予約をお願いします。*仮予約期間10/1～6まで（土日月を除く）

テーマ

今こそ免疫力を高めよう！

日時：10月21日（水）

第1部 13：00～14：00

第2部 14：30～15：30



密集を避けるため、同じ内容の講義を2回行います。都合の良い時間帯を選んでお申込みください。

講師：健康管理士 山田 隆士氏
参加費：無料 対象：岩根東地区にお住まいの方
定員：第1部・第2部とも20名

申込み：10月2日（金）8：30～電話受付開始
（先着順受付／定員になり次第〆切）

電話：41-1184（平日8：30～17：15）

持ち物：筆記用具・マスク・マイスリッパ

<ご注意>

- ・今回の受付は、電話での申し込みのみとします。
- ・窓口・FAX・メールでは受付しません。
- ・また、土日祝日および夜間も受付できません。

公民館カレンダー



<9月後半>

19日（土）すぎな学級 13:30～

23日（水）健康よろず相談（予約制）10:00～

24日（木）パソコン教室 14:00～

<10月>

1日（木）11月分仮予約受付開始 8:30～

2日（金）健康講話受講電話受付 8:30～

6日（火）健康よろず相談電話受付 8:30～

7日（水）健康学習会 13:30～

9日（金）公民館だより発行

10日（土）子ども英会話教室 10:00～

15日（木）パソコン教室 14:00～

21日（水）健康講話 ①13:00～ ②14:30～

27日（火）郷土史講座 13:30～

28日（水）健康よろず相談（予約制）10:00～

例年10月末開催の地区文化祭は中止となりました



岩根東地区「敬老会」は中止となりました！

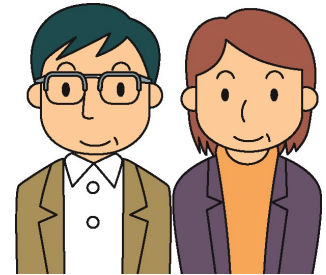
岩根東地区の新しい
民生委員・児童委員

岩根東地区社会福祉協議会が主催し、毎年恒例となっております「敬老会」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、残念ですが、本年は開催中止といたしました。

一日でも早く「平穏な日常」を取り戻せるよう願っております。

3年に1度の改選が行われ、令和元年12月7日に民生委員・児童委員の委嘱状伝達式が行われました。民生委員・児童委員は、地域の皆さんの生活上の相談に応じ、必要な支援などを行うボランティアです。民生委員・児童委員は広く社会の実情に通じ、社会福祉の増進に熱意のある住民が、地域から選ばれ活動します。また、民生委員・児童委員には守秘義務が課せられており、個人の人格を尊重し秘密を守られますので安心して相談することができます。岩根東地区の民生委員・児童委員については、以下のとおりです。（敬称略）

民生児童委員名簿は個人情報保護のためHP上では削除しています。
ご了承ください。



いわねこどもサロン

9/19(土)、10/17(土)10時～
学習支援事業。宿題をもって集まろう！

参加費
無料

高齢者のための「自立生活体操」の日程

○日時・対象

9月20日(日) 4月～6月生まれの方
10月4日(日) 7月～9月生まれの方
10月18日(日) 10月～12月生まれの方
13時30分～15時00分

○会場 岩根公民館(2階集会室)

○持物 タオル、飲み物、上靴、マスク

○費用 無料

○主催 高齢者福祉課(23-2630)



ふれあいサロンの日程

サロン西山公会堂 10月7日(水)
サロン新御堂寺 10月14日(水)
サロン住吉集会所 10月20日(火) 参加費200円

65歳以上の方対象

時間：すべて10時～12時

館長のつぶやき

『よい子』とどう向き合うか？



我が子が道端で転んだとき、どんな声かけをします(しました)か？

「痛くない、痛くない」と声をかけ、すくっと立ち上がった子に、「泣かなくて偉かったね」とほめる…大半の親はそうする(した)のではないのでしょうか。

しかし、痛いものは痛いと感じるのが人間の自然の姿です。「痛かったね」「怖かったね」「嫌だったね」という親の言葉とともに、子どもの心が安定すること、それが心の強さの源を育てるのではないかと思うのです。これが“共感する”ということです。

多くの親は、聞き分けのいい子は『よい子』、ぐずる子は『困った子』と受け止めます。しかし、『よい子』は、体中にあふれる、もっと遊びたいというエネルギーを、親の一声で封じ込められがちです。この痛みを吐き出せない『よい子』は、感情処理の方法を体得する機会を失ってしまいがちです。ある学者は、「その結果、思春期以降、いじめ加害や家庭内暴力、非行、引きこもりなどの問題を引き起こすことになりかねない。」とまで言っています。

公共の場での話は別として、子どもが泣きわめいたとき、どんなに泣かれようと、“優しい強さ”の中で、子どもが自分の気持ちと折り合うのを待つ。子どもは、泣いて怒って育っていくという当たり前の真実を、再認識したいと思うのです。